

地域における予防・発見・発信機能のシステム構築への一考察

—児童虐待防止活動の実践より（第3報）—

上原正希・飯浜浩幸・小早川俊哉・西崎毅
藤根収・堀川厚志・吉江幸子・杉本大輔
櫻井美帆子・大島康雄・湯浅頼佳・西野克俊
畠山明子

星槎道都大学研究紀要

社会福祉学部

第3号

2022年

地域における予防・発見・発信機能のシステム構築への一考察

—児童虐待防止活動の実践より（第3報）—

上原正希・飯浜浩幸・小早川俊哉・西崎毅
藤根収・堀川厚志・吉江幸子・杉本大輔
櫻井美帆子・大島康雄・湯浅頼佳・西野克俊
島山明子

要約

児童虐待防止活動の一つである「学生によるオレンジリボン活動」を社会福祉学部2年生に教員13名が携わり実施した。

児童虐待防止のための講義を行い、また社会に働きかけるために掲示物を作成し、社会にソーシャルアクションを実施した。

授業の開始前にアンケートをとり、また全ての取り組み後にもアンケートを実施したところ、「社会へソーシャルアクション」をすることが児童虐待防止を推進するためには効果があるという認識に変化した。

この度の活動を通して、ソーシャルワーカーに必要な技術の向上と認識変化が高まったことが実証された。（第3報）

この論文は過去にも報告してきた、児童虐待防止の広報・啓発活動である「学生によるオレンジリボン運動」に取り組んだ星槎道都大学社会福祉学部の保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・教員を目指す学生と教員の教育活動の実践報告である。

I. 学生によるオレンジリボン運動とは

「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動であり、オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持ち、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指している。

また「学生によるオレンジリボン運動」の、その目的は、近い将来親になりうる若者などに向けた児童虐待予防のための広報・啓発が主たる目標となっており、学園祭等を利用して学生が主体的に実施するもので、その活動内容は各校に委ねられている。当初、厚生労働省で主唱していたものであるが、平成27年度から、オレンジリボン運動の総合窓口を担う特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワークが引き継ぎ実施している。

II. 学生によるオレンジリボン運動の案内と申し込み

2021年7月27日(火)17:51、日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局より全会員校に対しメールが有り、その中に「認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク主催 2021年度 学生によるオレンジリボン運動 実施校募集のご案内」というメール項目があり、認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワークのホームページから「実施予定校登録用紙兼実施計画書」をダウンロードし、9月30日締め切りであったが、同日19:22に認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワークオレンジリボン運動事務局学生活動係に対し、計画書を記載し、例年通り、本学は実施する旨を、メールにて報告・計画書の提出を行った。

III. 実施予定校登録用紙兼実施計画書について

実施予定校登録用紙兼実施計画書については、実施校名や連絡先、担当者等の連絡先の記載と、実施日時・実施期間、実施予定内容を記載することとなっている。

実施日時・実施期間、実施予定内容については下記内容で提出を行った。

【表1】実施予定校登録用紙兼実施計画書

実施日時	① 9月13日～15日（3日間）	② 11月の1日間
実施期間	③ 11月の1週間程度	④ 11月13日～翌年の活動終了まで
実施予定内容	①児童虐待・オレンジリボン運動の講義、学生手作りオレンジリボン・児童虐待・オレンジリボン運動の掲示物、児童虐待防止のためのポスターの作成を行う。 ②北海道北広島市主催児童虐待防止講演会に参加、掲示物の展示を行う。 ③北海道北広島駅の北広島エルフィンパーク広場で掲示イベントを行う。 ④オープンキャンパスなどで披露する。	

IV. 計画に対する実施状況

「Ⅲ. 実施予定校登録用紙兼実施計画書について」に記載した実施日時・実施期間および実施予定内容を企画したものの、実施できたものとしては、①「児童虐待・オレンジリボン運動の講義、学生手作りオレンジリボン・児童虐待・オレンジリボン運動の掲示物、児童虐待防止のためのポスターの作成を行う」と④「オープンキャンパスなどで披露する」であった。

また、②「北海道北広島市主催児童虐待防止講演会に参加、掲示物の展示を行う」と③「北海道北広島駅の北広島エルフィンパーク交流広場で掲示イベントを行う」については困難となった。

②については、北広島市芸術文化ホールで毎年開催されていたが、コロナの影響から昨年も開催されず、今年度も開催されなかったため、実施ができなかった。代替案として、北広島市社会福祉協議会にも掲示できるスペースがあるので問い合わせたものの、困難との回答をいただき、開催できないこととなった。

また、③についても、北海道北広島駅の北広島エルフィ

ンパーク交流広場を管理するエルフィンパーク市民サービスコーナーに開催申し込みについて問い合わせたものの、北海道日本ハムファイターズの新球場（北海道ボールパーク）の開業向け、北広島駅の改修工事も予定されているとのことで、今後の見通しがつかず、早期に申込みされたものに対しては対応しているが、新規申し込みについては難しいとの回答を得て、開催しないこととした。

V. 実施した本学のオレンジリボン運動

本学は平成26年度より毎年開催しているが、オレンジリボン運動の活動内容は各校に委ねられているため、本学の活動内容については教員間で話し合い開催している。

(1) 講義及びオレンジリボン作成、掲示物の作成

9月13日(月)～9月15日(水)までの夏季集中授業は卒業要件になっている地域共生プログラムⅡという科目名で、社会福祉学部社会福祉学科2年生60名程度と教員

【表2】夏季集中授業「地域共生プログラムⅡ」1日目

9/13	1 講目	2 講目	3 講目	4 講目
	【講義】「児童虐待とは」「オレンジリボン運動とは」「子どもの貧困とは」 【作業】「学生手作りのオレンジリボン作成」			



写真1) 児童虐待・オレンジリボン運動の講義資料



写真2) 児童虐待・オレンジリボン運動の講義写真



写真3) オレンジリボン作成



写真4) 学生の手作りオレンジリボン

【表3】夏季集中授業「地域共生プログラムⅡ」2日目

9/14	1 講目	2 講目	3 講目	4 講目
	【作業】「児童虐待防止をソーシャルアクションをするための掲示物作成」			

【表4】夏季集中授業「地域共生プログラムⅡ」3日目

9/15	1 講目	2 講目
	【作業】模造紙作成	発表



写真5) 児童虐待について模造紙にまとめている

13名で実施した。

コロナ禍であったこともあり、今までより期間を短縮化し、学生同士の密も避け、換気などにも気を付けて作業を行った。

(2) 作成物の掲示

学生は「児童虐待とは」、「児童虐待の原因」、「被虐待児童の臨床像について」、「児童虐待の類型について」、「オレンジリボン運動について」などの内容を模造紙にまとめ、また、学生がマスコットを付け作成した手作りオレンジリボンも掲示物にして大学内に掲示し、高校生がオープンキャンパスなどの際に見てもらえるように掲示

した。

その他、授業時の内容などの活動は、学科 BLOG やフェイスブックなどで、適宜アップをし、学生によるオレンジリボン運動の周知なども実施した。

VI. オレンジリボン実施前後の学生へのアンケート

この児童虐待防止活動の一つであるオレンジリボン活動の効果を明らかにするため、簡単な調査を実施した。調査項目については下記とした。

Q1「オレンジリボン運動を授業前から知っていたか」、
Q2. 「Q1で知っていたという学生はなぜ知っていたの

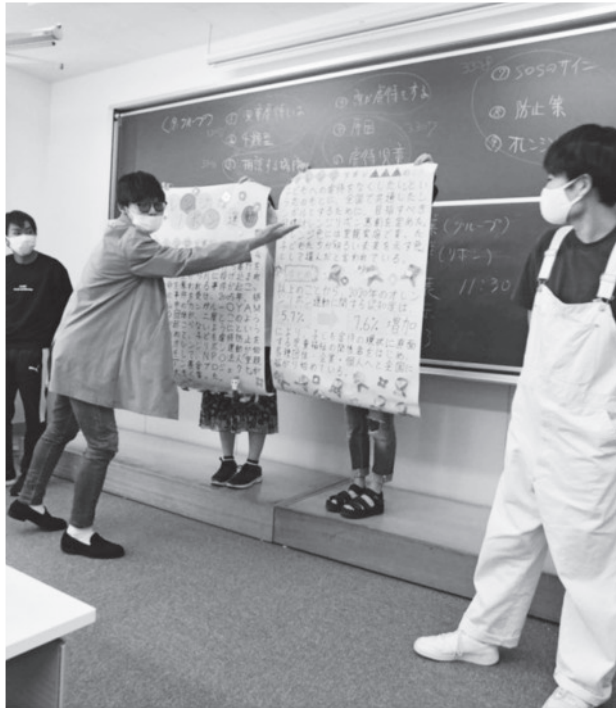


写真6) 児童虐待についてなど模造紙にまとめ、グループごとに発表会

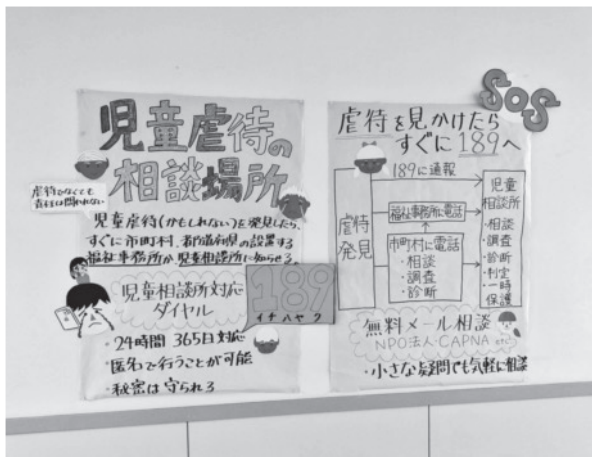


写真7) 大学の廊下に掲示①



写真8) 大学の廊下に掲示②

か」, Q3. 「児童虐待を防止するには、どのような活動が必要だと思うか」の3項目で、活動終了後、再度、Q3についてのみ質問をし、授業開始時と授業終了後の変化について明らかにし、本学で活動した実践内容がどのような効果を及ぼしたのかを考察した。調査対象者数は学生60名である。

【事前調査】

Q1. オレンジリボン運動を授業前から知っていたか。

学生60名対象で「知っていた」は26名(43.3%)、「初めて知ったが」は34名(56.7%)であった。「知っていた」と答えた学生については、Q2の質問について答えてもらった。

Q2. Q1で「知っていた」という学生はなぜ知っていたのか。

学生26名が対象で「先輩が学内で取り組んでいたので知っていた」は22名(84.6%)、「授業の中で学び知っていた」は2名(7.7%)、その他は2名(7.7%)で、その他の意見では「オープンキャンパスで知った」であった。

Q3. 児童虐待を防止するには、どのような活動が必要だと思うか(自由記述)

大まかに整理すると、「親に対する教育・働きかけ」は30名(50.0%)、「児童相談所の機能強化」は15名(25%)、「わからない」は12名(20%)、無記名は3名(0.5%)で



写真9) すべての活動を終了させ全員で記念撮影

あった。

【事後調査】

Q3. 講義・演習などを行い、児童虐待を防止するには、どのような活動が必要だと思うか（自由記述）

大まかに整理すると、「社会で支える・発見取り組み強化と社会へのソーシャルアクション」は26名（43.3%）、「親に対する教育・働きかけ」は16名（26.7%）、「健診などの強化」は10名（16.7%）「児童相談所の機能強化」は8名（13.3%）であった。

VIII. おわりに

星槎道都大学における「学生によるオレンジリボン運動」には学生60名と学部教員13名が活動した報告である。

アンケートから明らかになったこととしては、事前調査では、児童虐待を防止するためには、親や行政という当事者へのアプローチ主体で考えられていたり、わから

ないという、問題に対し、児童虐待の問題に向き合うことから距離感があったものの、講義や様々な活動を行ったことにより、対人援助職として必要な「社会的な側面への働きかけ」などの意見が見受けられるようになり、保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・教員を目指す学生にとって必要な視点が醸成されたことが明らかになり、この活動の意味があったことが明らかになった。

将来、対人援助職として、もしくは親となる学生たちの自覚が、学びの後も今後とも継続されることを望みます。

また、今回の集中講義では、大学内にある星槎国際高校北広島の高校生や先生も参加してくれ、大学生の学びにエネルギーを与えてくれたことに、感謝申し上げます。

【参考資料など】

特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワーク
(<http://www.orangeribbon.jp/> 2021.11.1)

**A case study for the establishment
of a system to prevent, discover, and reveal**
— from the implementation of children abuse prevention activities
(Third Report)

UEHARA Masaki IIHAMA Hiroyuki KOBAYAKAWA Toshiya NISHIZAKI Takeshi
FUJINE Osamu HORIKAWA Atsushi YOSHIE Sachiko SUGIMOTO Daisuke
SAKURAI Mihoko OOSHIMA Yasuo YUASA Yorika NISHINO Katsutoshi
HATAKEYAMA Akiko

Abstract

Thirteen faculty members were involved in the implementation of the Student's Orange Ribbon Program, one of the child abuse prevention projects, for second-year students in the Faculty of Social Welfare.

We gave a lecture on child abuse prevention and executed social actions to reach out to society by creating notices.

Through the surveys we had conducted before the lecture and after all the programs, we found out that the recognition of “social action toward society” had changed—it was seen as effective in preventing child abuse.

This project has proven that the skills required of social workers have improved and perceptions have changed. (Third Report)